

全体会

特別支援教育における ICF（国際生活機能分類）の活用の実際 ～一人一人のニーズを踏まえた指導と支援の充実のために～

基調報告

徳永 亜希雄 （国立特別支援教育総合研究所 主任研究員）

実践報告

二階堂 悟 氏（秋田県立勝平養護学校 教諭）

山元 薫 氏（静岡県立御殿場特別支援学校 教諭）

指定討論

佐藤 満雄 氏（北翔大学 教授）

司会

松村 勘由 （国立特別支援教育総合研究所 総括研究員）

全体会では、司会の松村より本会の趣旨について説明があった後、基調報告の徳永より、本研究の背景と趣旨、ICF の概要と学習指導要領解説での記述、ICF の活用の実際についての報告があった。

二階堂氏より、「ICF 関連図を活用した児童生徒の全体像の把握と課題の焦点化」について、秋田県立勝平養護学校での ICF を活用した児童生徒の全体像の把握と個別の課題の焦点化、それに基づく個別の指導計画の作成、授業への活用とその改善、情報の共有に関する取り組み、及びそれらの成果と今後の展望に関する提案があった。

山元氏より、「個別の教育支援計画、個別の指導計画のシステム作りと授業改善」について、静岡県立御殿場特別支援学校での ICF を活用した個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成、授業作り、及びそれらの成果と今後の展望に関する提案があった。

（以上、要項 P. 7～13 参照）

〈指定討論者より〉

指定討論者の佐藤氏より、「授業等の具体的場面における ICF の活用はこれからの課題であるが、今回の 2 つの提案発表はその参考となる」という総括があった。さらに二階堂氏に対しては「課題の焦点化の具体例」について、山元氏に対しては「能力のとらえ」について、それぞれ質問があった。二階堂氏からは、「個々のライフステージにおける参加」を重視した課題の焦点化のプロセスについて、山元氏からは、子どもの「できる」傾向の把握に活用している旨が、それぞれ回答された。また佐藤氏からは、発達障害児のいる通常学級を想定した模擬授業において ICF を活用するアイデアが提案された。

〈まとめ〉

徳永より、「現場における ICF の活用について、今後も実証と啓発を進める」旨、司会より、提案者、指定討論者、参加者に対するお礼がそれぞれ述べられた後、閉会した。